

2017年 6月 吉日

検体測定室連携協議会設立の趣旨と会員入会のお願い

検体測定室連携協議会
執行委員長 矢作 直也

日本再興戦略により「セルフメディケーションの推進」が国策となり、「健康長寿社会」の実現を目指し、2014年4月に、指先から自己穿刺により採取した少量の血液により健康チェックが可能となる新たな制度『検体測定室』がスタートしました。

検体測定室は、身近な薬局等を中心に、糖尿病や脂質異常症、高血圧といった生活習慣病に関係のある項目を簡単に測定でき、「自分の健康は自分で守る」セルフケア意識を高め普及を推進するとともに、健康診断や医療機関の受診につなげ、生活習慣病の早期発見、早期治療により重症化の予防が可能となります。

検体測定室は、国が目指す「地域包括ケアシステム」の構築にもつながる新しい制度であり、地域の健康ステーションとして普及を図る必要があると思われまます。

そこで、2015年5月、「検体測定室連携協議会」を設立し、検体測定室の更なる普及、定着を目指し、有識者及び実践者が連携、協議し、必要な情報発信をおこなう活動を始動しました。生活者へは、『検体測定室』の認知を高め、気軽に利用していただけるように呼びかけます。また、検体測定室を開設する各店舗間の情報共有や、精度管理を含むガイドライン遵守など、情報共有・交換等を通じて検体測定室の適正な育成を促進してまいります。

自分の健康は自分で守る時代に、セルフケアの新習慣の入り口となるのが『検体測定室』です。この活動がセルフケアの意識を高め、最終的に健康寿命の延伸を実現できる時代がくることを切に願っております。

この活動の意義をご理解いただき、会の活動にご賛同賜りたく何卒よろしくお願い申し上げます。

以 上